

令和7年度放課後活動指導者研修①実施報告

実施日：令和7年6月4日

当研修は、放課後活動指導者として、地域で行う子どもたちの多様な体験活動を充実させるための知識・技能の習得を図るための研修です。第1回は「子どもの遊びの理解と支援～子どもの活動プログラムを体験しよう～」という題目で、2つの体験活動を行いました。

○演習「レクリエーション体験」

栃木県レクリエーション協会 専務理事 高木 昭一 氏

「レクリエーション体験」は、円形に椅子を並べて活動を行いました。はじめに、体を動かしながらのアイスブレイクを実施しました。あいさつするときに、手をたたいたりジャンプしたりすることをつけるだけで、楽しい雰囲気をつくり出せることを体験できました。次に、グループ対抗のレクリエーションを行いました。グループ編成の際には、それぞれにグループ名を話し合って決めるなど、楽しさを引き出す工夫がなされていました。活動の内容は、五十音のカードを使ってできるだけ多くの食べ物の名前を挙げたり、1から9の数字カードと四則演算（＋、－、×、÷）のカードを使って指定された数になるように式を作ったりするもので、自然と受講者同士の交流が生まれるような仕掛けがありました。活動中は受講者の笑顔が多く見られ、とても楽しそうにレクリエーションを体験している様子が印象的でした。



○演習「工作遊び体験」

栃木県レクリエーション協会 相田 美智子 氏

「工作遊び体験」は、はじめに牛乳パックを使ってボールを作りました。次に、そのボールを使って的に当てて点数を競うゲームや、ピンゴを狙ってボールを投げるゲームなど、いろいろなゲームを体験しました。これらの活動を通して、子どもたちが手軽に、そして安全にできる遊びの工夫を学びました。受講者のみなさん自身が、グループでの体験活動をすることで、活動の在り方について様々な気づきを得ることができたようです。



今回は、身近な素材でできる楽しい活動の一例を教えてくださいましたが、受講者のみなさんや子どもたちの発想、創意工夫により、活動の可能性は無限に広がります。ぜひ、放課後子ども教室等の活動で活用していただければと思います。

★受講者の声★

- ・活動プログラムへのハードルがぐっと下がったような気がします。身近なもので工夫次第で楽しいものができるんですね。
- ・子どもが遊びを考えながら遊びを広げていくという発想がすばらしいと感じました。手軽にできるという活動が大変参考になりました。
- ・安全面に配慮しつつも、大胆に遊べる仕組み作りや、道具を使わなくても行えるレクリエーションがすばしかったです。
- ・子どもたちとコミュニケーションの取り方について、昔ながらの遊びの活用も良いと思うことができました。また、大人も楽しむことが、日々子どもたちとの関わりに良い影響を与えることができると再確認できました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp